

リーディングDXスクール事業【実践事例】

幸手市立さかえ小学校（埼玉県）【指定校】

【取組内容】 個別の学びと学級全体の学びとを結びつけるICT活用【6年 総合的な学習の時間】

○自校の自慢をSNSツールで紹介する活動の中で、タブレット端末を活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ってきた。

☆ICT活用：Microsoft teams、Microsoft PowerPoint、思考ツールソフト、SNS

（個別）「さかえ小学校の自慢」を調べる
→PowerPointや動画編集ソフトでSNS投稿記事を作成

Microsoft teamsの6年生のクラスチャネルの中に「さかえタイム【総合的な学習の時間】チャネル」を開設し、お互いが調べてきたことを確認したり、アドバイスを送り合ったりした。**（協働）**

自分たちの投稿記事の振り返りと
幸手市役所広報担当の方の話をもとに、
これからのさかえ小自慢のSNS投稿に必要なこと
について話し合う。**（協働）**

グループ協議・全体共有にて思考ツールソフトを活用 **（協働）**

自分たちの投稿内容が、本当に正しいかどうかを知るために、幸手市役所の広報の方をゲストティーチャーとして招聘



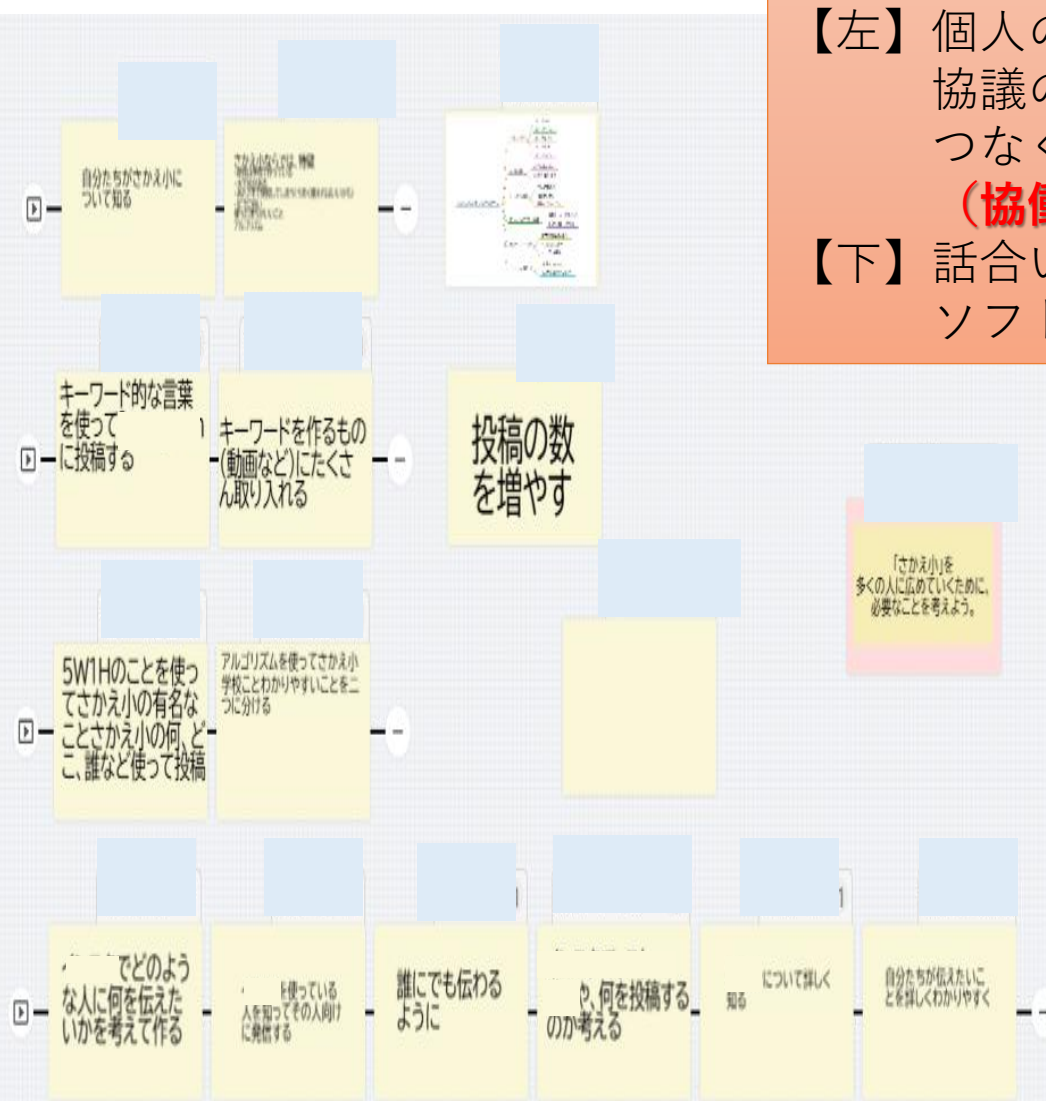
さかえ小学校の自慢を広めるという目標を立て、自分たちの考え・幸手市役所広報担当の方の想い・新たに更新された考えを共有するために、思考ツールソフトを活用



リーディングDXスクール事業【実践事例】

幸手市立さかえ小学校（埼玉県）【指定校】

【取組内容】 個別の学びと学級全体の学びとを結びつけるICT活用【6年 総合的な学習の時間】



【左】 個人の考えをまとめた後に、グループ協議の中で、似ている考え・違う考えをつなぐために思考ツールソフトを活用

(協働)

【下】 話し合い後の個人の振り返りを思考ツールソフトに入力 (個別)

～振り返り～

家でよくインターネットを使うのですが、ショート動画を見ていると、一方的に「伝える」動画視聴者さんに「伝わる」動画、と様々なものが出てきます。確かに一方的に伝えるショート動画より、視聴者さんに「伝わる」動画の方が内容が頭の中に入ってきてやすく、最後まで見る気になります。しかし、一方的に「伝える」動画だと、途中で飽きてしまったりすることで見てもらえない・関心されない投稿になってしまいます。なのでこれから投稿するときには、表示基準(アルゴリズム)や、5W1H(What, When, Who, Where, How)などを工夫して視聴者さんに「伝わる」投稿にしようと思います。

これからどんなことを意識してInstagramの投稿をしていきたいかな？



【実践から見てきたこと】本取組を継続してきたことで、児童が自らを見つめ、振り返る力が量的・質的に向上した。上記はある児童の振り返りだが、単元当初とは大きく変容している。今後は、深い学びの一層の定着を目指すべく、他教科等の学びを結び付け(コネクト)、知の精緻化を図っていく。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

幸手市立さかえ小学校（埼玉県）【指定校】

【取組内容】 外部指導者の指導内容とヒラメ養殖体験から得た情報をまとめる活動【5年 総合的な学習の時間】

- 5年生では、ヒラメ養殖体験を行っている。定期的に来校されるヒラメ養殖の外部指導者から得た情報と、毎日自分たちが行っているヒラメ養殖活動をとおして得た情報とを自分たちで咀嚼して、グループで考えをまとめ、Microsoft PowerPointでまとめる活動を行った。

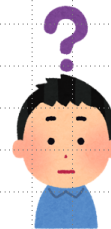
【左】外部講師
授業・養殖活動【下】児童が
まとめたプレゼン
資料の一部

養殖経験を踏まえて、命をつなげるを選んだ 動機

- ・一番**メリット**が大きい
- ・難易度もそれまで**高くない**（現実的）
- ・ヒラメも**長く生きれる**から
- ・だから、**命をつなげる、がいい**と思った

今後の**養殖**や**食**に対しての**考え**

- ・命をつなげたい
- ・命をつなげるため→**4匹を絶対に死なせない**
- ・命をなくさせない・大切に**する**。
- ・今まで→何気なく食べる
- ・これから→食べ物に**感謝**をする



【実践から見てきたこと】
情報活用能力は学習指導要領において「学習の基盤となる資質・能力」として位置づけられている。体験を通して学んだ(INPUT)した情報を左記スライドとしてまとめる(OUTPUT)ことを繰り返す経験は、児童の情報活用能力を育む一助となった。今後は、何のために(Why)を一層意識して情報を整理・表現させていきたい

